

# 2025年度 入学試験 学特入試Ⅱ・一般

## 国 語

※問題は1ページから16ページまであります。

※マークシートに、受験番号・氏名・科目を正しく記入してください。

※解答は、すべてマークシートに記入してください。

※書き誤りをしたときは、きれいに消してから、新しい解答を記入してください。

学 特 入 試 Ⅱ 般	受 験 番 号		氏  名	
----------------------------	------------------	--	------------	--

高崎健康福祉大学高崎高等学校

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人のからだと言語との関係について、私がしばしば異常だと言わざるを得ないのは、なぜ食物<sup>A</sup>セツ取の器官を、言語という極めて抽象的な活動を<sup>イ</sup>つくり出す器官としても共用しているのだろうかと思うからである。神様が人間を創ったのだとしたら聞いてみたい。どうして人間をこのように、へんなぐあいに設計したのですかと。

これらのなぜは、ほとんど説明できないのではないだろうか。説明できないという点であきらかに人体は自然に属している。

ことばが自然に属すると考えられるのも、ことばが、なぜこのようになってくるのか、たとえば日本語はなぜこのようになつてくるのかを説明できないからであり、それはちょうどキリンの首はなぜあのように長いかを説明できないのと同様である。

ことばについて何か人工の部分があるとしたら、それは文字<sup>ウ</sup>だけである。ことばは文字をともなつて生れたのではなく、身ぢかにあるどこかの文字を借りてきて使うしかない。日本語が漢字を用いているのはまったく偶然であつて、日本語が書かれることを社会が要求したときに、近くには漢字しかなくて、他に選択の余地がなかったからである。もし、漢字以外の、もっと便利な文字があれば、それを用いていたはずである。

□ I、日本語が漢字で書かれているのは歴史的運命であつて、自然によつてではない。にもかかわらず、いな、だからこそ、漢字の賛美が必要になつてくる。欠点の多いものほど、それだけ多くの賛美が必要になつてくることは、日々の経験が教えている。(a)

言語学が自然科学志向で、いつでも文字をとり去つて、文字以前のい

わばハダカのことばを見ようとつとめることも、その自然科学志向のあらわれである。

さて、ここまで考えてくると、ことばがどうしても自然物に見えてしまふ理由がはつきりする。つまり、日本語の発音や文法がなぜこのようであり、あのようでないかは、簡単には説明できない。すなわち理由づけができないのである。キリンの首がなぜ長いかは、日本語が「人々を」となつていて、なぜ「を」人々」のような結びつきの順序、すなわち助詞の前置ではなくて、なぜ<sup>B</sup>コウ置をとるか説明できない。(b)

こうした、ことばの自然、本来のその特性にもとづく分類は、動植物の分類のように安定していて、有効である。

ところが、そうした変えられない自然に<sup>C</sup>コン拠を置きながらも、ことばとことばとの関係に、新たな状況を作りだそうと試みられることがある。その場合には、そのことばを話す人々の意図が介入し、ある目的に合わせようと努力が試みられる。その目的と意図がはたらくのは、たとえことばが自然物だとしても、そのことばを維持しているのは、そのことばを話す人々の集団、「言語共同体」の意志であるからだ。言語共同体は、ことばを決して自然のままにはほうっておかない。(c)

さて、言語の絶滅の危機を語る人たちは、たいていはいくつかの巨大言語にのみ込まれて行く、<sup>オ</sup>少数の人にしか用いられない言語の運命について心配する。

たとえば、<sup>\*</sup>ブリテン島とアイルランド島の間のアイリッシュ海にある、淡路島<sup>あぢしま</sup>くらしいの大きさのマン島には、固有のマンクス・ゲイリク語を話す人の数は、一九〇一年には四四一九人であった。それが、一九五〇年にはわずか十人、六七年には二人だけになつてしまった。言うまでもな

く、この二人は老人にきまっている。若い人たちは、決してこの未来のない言語を学ぶというむだはしないからだ。このめずらしいことばを見殺しにはできないというので、その後、このことばをよみがえらせようという義勇軍<sup>ボランテイア</sup>が入って行って、みずからこのことばを身につけて残そうという運動が生じるけれども。(d)

私としては、もっと身ぢかなアイヌ語について述べた方がいいと思うのだが、それはアイヌ語の研究と蘇生運動<sup>そせい</sup>に身を投じている人にゆだねよう。

さて、ことばが死滅するというが、ことばは生物ではないから、自分から生れたり勝手に死ぬということはないのであって、それを話す人がそのことばを話すのをやめてしまつて他のことばに移るか、あるいは、そのことばを話す人が全部死んでしまうから、ことばも死ぬのである。ことばの運命をにぎっているのはいつも人間なのだ。

話すが死ぬことによつて、ことばそのものが消えてしまうという、古<sup>D</sup>テン<sup>II</sup>的でドラマチックな例としてダルマチア語があげられる。

この言語の最後の話し手、アントニオ・ウディーナは、一八九八年に<sup>\*ざえ</sup>火山爆発で亡<sup>な</sup>くなってしまい、それとともにダルマチア語も消滅した。ダルマチア語は、イタリア語とルーマニア語とを結ぶ重要な言語と目されていたので、アントニオが死ぬ前に、専門家たちが調べておいたと言われるが、言語中での重要度から言えばアイヌ語の方がはるかにたいせつである。それは、他の類似の言語のなかまを伴っていないからだ。ダルマチア語は大きい目で見ると、なかまがいっぱいいる。だけどアイヌ語には、それほど身ぢかに近い仲間がないのである。

ことばが絶滅するということは、どんな点からみても残念なことであ

る。それは、ことばの一つ一つが、ある集団の、民族的集団であれ<sup>\*</sup>族的集団であれ、それぞれの生活用具、生産の手段であるにとどまらず、考え方、生きかた、価値観をたくわえた財宝であるのみならず、さらにこれから先も、いろいろな作品をつくりだす力を秘めているからだ。

それら<sup>カ</sup>絶滅危惧種<sup>きぐ</sup>の言語の危機を訴える人たちは、危機度は示すことがあつても、保存の必要度について述べることはない。たぶん、それらひとしく危機にさらされている言語たちに、こつちの方がもっと大切に救わねばならないと差別を作ると、言語の防<sup>E</sup>エイ作戦に大きなひび割れができてしまうおそれがあるからだろう。それらはおしなべて、それぞれが対等に救われることを求めているのだ。だからここに保存の必要度のものさしを求めることは、この運動そのものを危機におとし入れてしまふかもしれない。

生物種的な考えにたてば、たとえば、日本語のなかのある方言が減びるのは残念なことだが、とくに、その中で、民芸的に、学術的に価値の高いものと、あまり特徴がなく、注目されず、やや「なまった」変種のようなものがあるとす。そうした方言が減びるのはまだ我慢できるとして、アイヌ語が減びるのは、より痛切な損失だと私には感じられる。このように感じるのは、言語の分類上の学問的、職業的な評価がはたらいっているのであつて、話し手の意識とはかならずしも一致しない。話し手にとっての大切さは、学問上の、主として系統分類上の貴重さとは別のものである。話し手にとってはことばそのものよりも、より文化的、政治的動機が重きをなしている。

しかし動植物と言語の分類とは、似ているようでいて、決定的なちがいがまだある。それは、たとえば分類される蝶<sup>ちょう</sup>には、自分ほどの仲間

似ていて、どの分類項目に属しているかという意識がないのに対して、言語には、話し手の意識があつて、それがはたらくからである。いな、これはだいたいな点であるから、もつとていねいに説明しなければならぬ。

ある言語が、ある言語に近く、いわば方言的な関係にあるのに、別のある言語とはまったくちがうという意識があらわれるのは、話し手である人間においてであつて、言語そのものがそう思うわけではない。

動植物が自らの分類上の地位を知らないのと同様に、言語もまた、自ら<sup>\*</sup>がロマンス系だのゲルマン系だのと知っているわけではない。動植物においても言語においても、そのような意識はないので、その意味においては、どちらも「自然の存在」として考えることができよう。

II 言語が生物と異なるのは、後者がそれじたいとして、人間とかかわりなく存在しうるのに、言語は、それを話す人間なしには自立した存在としてはあり得ない点である。

それにもかかわらず、言語学は、言語それじたいを、まるで自立したものであるかのような存在として扱ってきた。まるで話す人間がいなくても、存在したかのように。じじつ、消え去った、三千年も昔の言語、粘土板に焼きつけられて残っている、シュメール語や、アッカド語などを扱う言語学者は、それをどんな人間がどんな社会で（ソビエト言語学の用語ではどんなカイ<sup>F</sup>級が）、話していたかということ、全く、あるいはほとんど考えなくても、粘土板の上に残った文字から、言語そのものを考えるしかたは、ちょうど岩石の中に化石として残った昆虫や花粉をとり扱うのと同じである。もつとも、昆虫や花粉のばあい、生物学者は言語学者よりも、はるかにそれらが存在した環境を問題にしたのであ

る。この点では、言語学者は生物学者よりもより単純な確認で満足する。つましい人たちのだ。

しかし言語のばあいは、そこにそれを話す人間がいなければ生れもせず、存在もしなかつたことは明らかだ。そして、言語を話す人間には、そこに複数の話し手からなる言語の共同体があるというのが前提条件である。たった一人だけの言語は存続しない。

（田中克彦「ことばとは何か——言語学という冒険」による）

（注）\*ブリテン島とアイルランド島||イギリスの領土を構成する島

\*礦山||鉦山に同じ。石炭・石油を採掘する山

\*氏族的集団||共通の祖先をもつ諸家族で構成される集団

\*ロマンス系だのゲルマン系だの||いずれも言語の系統を指す

(1) 二重傍線部A～Fのカタカナと同じ漢字があてはまるものを、次の①～④の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

A セツ取 1

- ① 哀セツ
- ② 包セツ
- ③ セツ約
- ④ 巧セツ

B コウ置 2

- ① 濃コウ
- ② コウ庭
- ③ コウ績
- ④ コウ退

C コン抛 3

- ① コン菜
- ② コン惑
- ③ コン在
- ④ 悔コン

D 古テン 4

- ① 個テン
- ② テン候
- ③ テン礼
- ④ 自テン

E 防エイ 5

- ① 前エイ
- ② エイ嘆
- ③ エイ眠
- ④ 精エイ

F カイ級 6

- ① カイ決
- ② カイ勤
- ③ カイ壘
- ④ 音カイ

(2) 傍線部ア「しばしば」の品詞として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。 7

- ① 副詞
- ② 連体詞
- ③ 接続詞
- ④ 感動詞

(3) 傍線部イ「抽象的」の対義語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。 8

- ① 副次的
- ② 構造的
- ③ 叙情的
- ④ 具体的

(4) 傍線部ウ「文字」とありますが、ここで筆者が「文字」をとりあげた理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。 9

- ① 日本語ということばが偶然にも漢字という美しい「文字」を選択したことを強調し、漢字のもつ芸術性を説明するため。
- ② ことばが常に人工の「文字」より先に発生することを指摘し、言語が「文字」を排除することの正当性を示すため。
- ③ 言語学が人工物である「文字」を考察対象から排除することを述べ、自然科学的な手法を目指していることを示すため。
- ④ 自然発生したことばが社会に「文字」という形態を要求するという矛盾を明らかにし、ことばの欠点を指摘するため。

(5) 本文中の空欄 I ・ II に入る語として最も適当なものを、次の①～⑥の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

- ・ 空欄 I 10
  - ・ 空欄 II 11
- ① しかし
  - ② そのうえ
  - ③ なぜなら
  - ④ たとえば
  - ⑤ ところで
  - ⑥ すなわち

(6) 次の一文を本文中に補う場合、(a)～(d)の中で最も適当な場所はどこですか。該当するところを次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。 12

「そのようになってきているのだから、それをなぜ変えようと思う必要があるのか」といえる程度である。」

- ① (a)
- ② (b)
- ③ (c)
- ④ (d)

(7) 傍線部「日本語の発音や文法がなぜこのようであり、あのようでないかは、簡単には説明できない」とありますが、この部分に含まれる文節の関係として、適当でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- ① 主語・述語の関係
- ② 独立の関係
- ③ 並立の関係
- ④ 修飾・被修飾の関係

(8) 傍線部「少数の人にしか用いられない言語」とありますが、これらの例についての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- ① マンクス・ゲールク語は、人為的にことばをよみがえらせることのできた成功例であり、希少な言語を存続させるにはボランティアの果たす役割が重要であることを述べようとしている。
- ② ダルマチア語との比較を通して、類似する系統の言語が存在しないアイヌ語の貴重さが主張されており、話し手の意識から独立した言語の希少価値という話題へつなげようとしている。
- ③ ダルマチア語は、言語の話し手がいなくなるときにことばが死滅することを印象づけるための例で、アントニオ・ウディーナが急死しなければ今も存続していたという見解を示している。
- ④ 具体例として挙げられた三つの言語は、いずれも巨大な言語を話す人間によって消滅が運命づけられている例であり、言語を守る手立てが必要と考える筆者の危機意識が示唆されている。

(9) 傍線部「絶滅危惧種の言語の危機」とありますが、言語の絶滅に対する筆者の考えとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

15

- ① 言語は民族あるいは民族的集団の文化的特質を表すものであり、将来の文化的可能性を秘めたものでもあるので、絶滅するのは大きな損失である。
- ② ある言語が絶滅するのは損失であり残念なことだが、学問的な分類上、重要性には差異が存在するので、まずは重要度の高い言語の保存に努めるべきである。
- ③ すべての言語は歴史的な観点から等しく貴重なものなので、特定の言語の保存を優先させることは、それ以外の言語の研究者からの非難を招くことになる。
- ④ ある言語の存続を話し手が望むのは、その言語自体が話し手にとって価値があり、愛着を感じるからであって、政治的・学問的な動機が存在するわけではない。

(10) 傍線部キ「言語学者は生物学者よりもより単純な確認で満足するつましい人たち」とありますが、筆者がこのように述べる理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

- ① 古代言語を扱う言語学者は、過去の遺物から得られた数少ない手がかりのみで古代言語に関する考察を重ねる洞察力をもつことを、生物学者との対比を通して称賛したいから。
- ② 古代言語を扱う言語学者が、粘土板に残っている文字を、生物学者が昆虫や花粉の化石を取り扱うときと同程度の繊細さをもって考察していることを、暗に批評したいから。
- ③ 古代言語を扱う学者が、言語とそれ用いる人間や社会との関係性を考慮に入れず、物質的な資料としての文字からのみ言語を研究していることを、皮肉を交えて批判したいから。
- ④ 古代言語を扱う言語学者が、その言語が話された時代の動植物や自然環境に目を向けず、文字として残った資料のみを考察対象としていることを、評価しかねているから。

(11) 本文の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

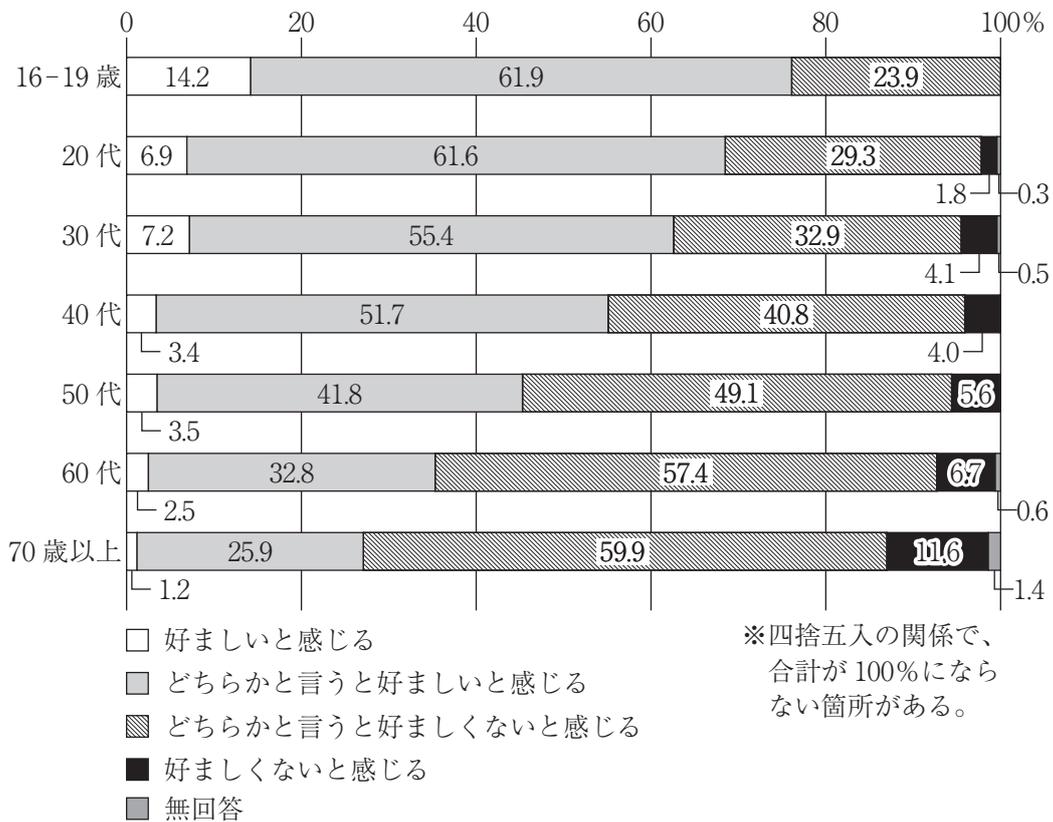
- ① ことばが動植物のような自然物と決定的に異なる以上、ことばとことばの関係において人間が目的と意図をもって介入し、新たな状況を生み出していくことが望ましいといえる。
- ② ことばがそれを話す人間によって生まれたり消滅したりする以上、自然に属するものとは言えず、今後もことばを存続させるためには学問的にも政治的にも適切な管理が必要となってくる。
- ③ ことばは文字という人工物を含む特殊な自然物だと言えるのであり、ことばが失われても文字だけは、共同体の有無や話し手の人数に関わらず、一定の年月にわたって存続するものである。
- ④ ことばが自然物でありながら動植物とは異なるのは、ことばはそれをを用いる人間が存在することによって初めて生まれ、また話し手である人間は必ず共同体に所属しているという点である。

(12) 次の資料は、「AED、SNSなど、アルファベットの略語が用いられている状況を好ましいと感じるか」についての調査結果である。この資料から読み取ることができる内容として適当でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

- ① アルファベットの略語が用いられている状況に対する抵抗感は、若い年代層ほど薄いと解釈できる。
- ② 60代を境目に、「好ましくないと感じる」、「どちらかと言うと好ましくないと感じる」と答えた人の割合が半分を超える。
- ③ 30代では、「好ましくないと感じる」、「どちらかと言うと好ましくないと感じる」と答えた人の割合は四割に満たない。
- ④ 60代で「どちらかと言うと好ましくないと感じる」と答えた人の割合は、16～19歳で「好ましいと感じる」と答えた人の割合の約四倍である。

〔資料〕「AED、SNSなど、アルファベットの略語が用いられている状況を好ましいと感じるか」



〔文化序 令和四年度「国語に関する世論調査」より〕

問題は次のページに続きます。

二 次の古文は応天門で火事があつた際、伴大納言は左の大臣（源

信）の放火だと告発したが、その後左の大臣は無罪となり放免された場面を描いたものである。本文を読んで、後の問いに答えなさい。

右兵衛の舎人なる者、東の七条に住みけるが、司に参りて夜更けて家に帰るとて、応天門の前を通りけるに、人のけはひしてささめく。廊の脇に隠れ立ちて見れば、柱よりかがりおるる者あり。あやしくて見れば、伴大納言なり。次に子なる人おる。また次に雑色とよ清といふ者おる。「何わざしておるにかあらん」とつゆ心も得で見ると、この三人おり果つるままに走る事限りなし。南の朱雀門さまに走りて往ぬれば、この舎人も家さまに行く程に、二条堀川の程行くに、「大内の方に火あり」とて大路ののしる。見返りて見れば、内裏の方と見ゆ。走り帰れば、応天門の半らばかり燃えたるなりけり。「このありつる人どもは、この火つくとて登りたりけるなり」と心得てあれども、人のきはめたる大事なれば、敢へて口より外に出さず。その後、「左の大臣のし給へる事」とて、罪かうぶり給ふべしといひののしる。「あはれ、したる人のあるものを、いみじき事かな」と思へど、言ひ出すべき事ならねば、いとほしと思ひありくに、「大臣許されぬ」と聞けば、罪なき事はつひに逃るるものなりけりとなん思ひける。

〔宇治拾遺物語〕による

（注） \* 右兵衛の舎人 || 右兵衛府という役所の役人

\* 司 || 役所

\* ささめく || ささやく声とする

\* かがりおるる || ずり降りてくる

\* 雑色 || 下級の家来

\* つゆ心も得で || まるで訳も分からず

\* 家さま || 自分の家の方へ

\* 大内 || 天皇の住まい。内裏も同じ

\* 人のきはめたる大事 || 他人の人生を左右する重大なこと

\* いとほし || 気の毒なことだと \* 許されぬ || 許された

(1) 本文中で、「」が抜けている発話部分があります。その部分として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

19

- ① 夜更けて家に帰る      ② おり果つるままに走る事  
③ 罪かうぶり給ふべし      ④ いとほしと思ひありく

(2) 二重傍線部「きはめたる」、「思へど」、「いとほし」を現代仮名遣いで表したものと最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

20

- ① きはめたる / 思へど / いとほし  
② きはめたる / 思へど / いとおし  
③ きわめたる / 思へど / いとほし  
④ きわめたる / 思へど / いとおし

(3) 傍線部ア「廊の脇に隠れ立ちて見れば」とありますが、その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

21

- ① 不審者の気配に気づき、自分の身を危険から守ろうとしたから。
- ② 応天門で聞こえた話し声の主に、身を隠すと言われたから。
- ③ 不審な話し声を聞き、こっそり様子をうかがおうとしたから。
- ④ 自分のあとをつける不審者の正体を、確かめようとしたから。

(4) 傍線部イ「走りて往ぬれば」とありますが、この場面についての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

22

- ① 伴大納言ら三人が、放火の現場を舎人に見られてしまい、逃げようとしている。
- ② 伴大納言らの一行が悪事をはたらいた後、現場から急いで立ち去ろうとしている。
- ③ 舎人が、応天門から火の手が上がる前に、安全な場所に避難しようとしている。
- ④ 舎人が、火の手が上がることをいち早く朱雀門の人々に知らせようとしている。

(5) 傍線部ウ「大路ののしる」の現代語訳として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

23

- ① 大通りで悪口を言っている
  - ② 大通りでけんかをしている
  - ③ 大通りに人が行き交っている
  - ④ 大通りの人々が騒いでいる
- (6) 傍線部エ「走り降りたれば」の動作の主体を、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

24

- ① 伴大納言
- ② 左大臣
- ③ 舎人
- ④ とよ清

(7) 傍線部オ「罪なき事はつひに逃るるものなりけりとなん思ひける」とありますが、この時の気持ちとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

25

- ① 罪を犯していない人の疑いが晴れて納得する気持ち。
- ② 罪を犯した者が逃げおおせたことが残念な気持ち。
- ③ 罪を犯した者についての証言をせず後悔する気持ち。
- ④ 罪を犯していないのに処罰され気の毒だという気持ち。

(8) 本文の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

26

- ① 舎人は伴大納言の一行が放火したことを周りに言えずにいた。
- ② 舎人は伴大納言からの報復を恐れ、目撃したことを黙っていた。
- ③ 舎人は左の大臣が無罪であることを周囲にほめかしていた。
- ④ 舎人は左の大臣と伴大納言の関係が悪化し、心を痛めていた。

問題は次のページに続きます。



(2) 傍線部②「足」とありますが、漢文中と同じ意味で「足」が用いられている熟語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

31

- ① 足跡      ② 遠足      ③ 補足      ④ 雨足

(3) 傍線部③「一家得周道、挙而用之」を書き下し文に直したとき、六番目に読む漢字を、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

32

- ① 得      ② 道      ③ 挙      ④ 之

(4) 傍線部④「不蔽於成積也」とありますが、これについての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

33

- ① 世間に広まっている多くの思想家たちに染まるような心配がなくなるということ。  
② 世間に広まった孔子の教えが、誤って理解される心配はなくなるということ。  
③ 世間に孔子の教えを広めていくうえで、障害になるものは何もな  
いということ。  
④ 世間に孔子の教えと悪い思想の見分け方を包み隠さず伝えるべき  
だということ。

(5) 傍線部⑤「此不蔽之福也」の現代語訳として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

34

- ① これは幸福を見極める心眼を曇らせない方法である。  
② これは心を曇らせなかったことで招いた幸福である。  
③ これは心が曇っても幸福でいられる心がけである。  
④ これは心が曇ったときのみ気づく幸福の形である。

(6) この文章が伝えようとしていることとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

35

- ① 孔子の政治論は、過去の王よりも優れているということ。  
② 孔子は徳を高めることに、自分の幸福を見出したということ。  
③ 孔子は過去の偉人と同様、様々な思想を学んだということ。  
④ 孔子の教えだけが、聖人に並ぶ唯一素晴らしいものだということ。

四

次の(1)～(5)の文の空欄にあてはまる最も適当な言葉を、後の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1)  というから、未経験でもまずはやってみなよ。  
36

(2) 叔父は用心深く、何事につけても  タイプだ。  
37

(3) 彼女が志望校に合格したのは、まさに  だよ。  
38

(4) 道に迷ったけれど、 でおいしいお店を見つけた。  
39

(5) こんなに説得しているのに彼の反応が薄くて  だ。  
40

① 怪我の功名

② 石橋を叩いて渡る

③ 弘法筆を選ばず

④ 雀百まで踊り忘れず

⑤ 案ずるより産むが易し

⑥ のれんに腕押し

⑦ 蛍雪の功

⑧ 船頭多くして船山に上る